

# 腫瘍マーカー

臨床検査科

腫瘍マーカーとは、癌細胞が産生する特殊な物質、または生体側の反応物質で、それらを組織、体液、排泄物などで検出することが、癌の存在、種類、進行の程度、治療効果の判定を知る上で目印となるものです。

このような腫瘍マーカーを画像診断とかけ合わせるにより早期発見および再発のチェックに利用することが広く行われています。

注意)腫瘍マーカーは、がんの他にも、炎症や良性疾患でもデータが上昇します。がんに対する最終的な診断は、臨床経過やほかの検査所見など総合的見地より慎重に行われます。

主な腫瘍マーカー

腫瘍	腫瘍マーカー
食道がん	SCC シフラ
肺がん 扁平上皮がん 腺がん 小細胞がん	シフラ, SCC SLX, CEA NSE, Pro-GRP
肝細胞がん	AFP PIVKA-II
胆嚢、胆管がん	CA19-9 [CA50, sPAN-1]
腎がん	BFP
前立腺がん	PSA [fPSA, γ-SM] PAP
胚細胞腫瘍 (睾丸、卵巣、 縦隔) 絨毛性腫瘍	AFP LDH hCG PL-ALP
内分泌腺腫瘍	各ホルモン

腫瘍	腫瘍マーカー
神経芽細胞腫	VMA, HVA, NSE カテコールアミン
甲状腺髄様がん	カルシトニン CEA
乳がん	CA15-3, CEA NCC-ST-439, ERBb2
胃がん	CA72-4, STN CA19-9, CEA
膵がん	CA19-9 [CA50, sPAN-1]
結腸・直腸がん	CA19-9 CEA
子宮頸部がん 子宮体部がん	SCC CA125
卵巣がん	CA125, CA72-4 STN, CA54/61 GAT
骨肉腫 骨転移(乳腺、 甲状腺、前立腺)	ALP ICTP, CTx LDH, ALP

腫瘍マーカーの使用目的には大きく二つの使い方があります。一つはがん診断の目的で、もう一つはがんの病状経過のモニタリング、予後因子としての使用です。

がん診断のための腫瘍マーカーとはがん細胞が産生したり、非がん細胞が産生する物質と質的あるいは量的に差異のある物質、さらにがん特異性の高いがん関連遺伝子あるいはその産物などがあります。

モニタリングあるいは予後の指標としての腫瘍マーカーは がんの診断のための腫瘍マーカーのほかに担がんの結果、がん細胞以外の細胞が産生する物質などがあります。

	食道癌	胃癌	大腸癌	肝癌	膵癌	胆嚢・胆管癌	肺癌	前立腺癌	乳癌	卵巣癌	子宮頸癌	甲状腺癌	神経芽細胞腫
CEA													
CA19-9													
AFP													
PIVKA II													
PSA													
CA125													
SCC													
ProGRP													
CYFRA													
SLX													
NSE													
CA15-3													

## よく使われるマーカー

- 特に有用性がある
- 有用性がある
- 当院で検査できるもの

